



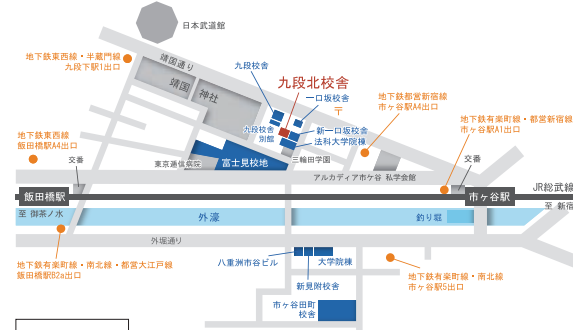


2020年4月 「HOSEIミュージアム」が オープンしました

HOSEIミュージアム (九段北校舎1階) 内観



(上) 内覧中の田中総長。デジタルサイネージでさまざまな情報に触れることができる。(下) HOSEIミュージアム外観の様子。外にはコミュニケーションスペースも。



HOSEIミュージアムウェブサイト
<https://museum.hosei.ac.jp>



法政大学校歌展示コーナー

「HOSEIミュージアム」は、法政大学140年の歴史を通じて蓄積したコレクションの収蔵、公開、ならびに多様な研究コラボレーションの促進を図るとともに、資源のデジタル化を進めることで、法政大学の価値とブランドを発信する拠点となることを目指しています。

このミュージアムは、その中心的機能を有する「ミュージアム・コア」、3キャンパスのおおの個性を伝える「ミュージアム・サテライト」、学内各所でミュージアムとの接点をつくる「ミュージアム・ポイント」、学内資源をウェブサイトで公開する「デジタルアーカイブ」の四つの機能で構成されます。

今回オープンしたのは、市ヶ谷キャンパス九段北校舎1階に設けたミュージアム・コアとデジタルアーカイブです。

「HOSEIミュージアム」は、法政大学140年の歴史を通じて蓄積したコレクションの収蔵、公開、ならびに多様な研究コラボレーションの促進を図るとともに、資源のデジタル化を進めることで、法政大学の価値とブランドを発信する拠点となることを目指しています。

このミュージアムは、その中心的機能を有する「ミュージアム・コア」、3キャンパスのおおの個性を伝える「ミュージアム・サテライト」、学内各所でミュージアムとの接点をつくる「ミュージアム・ポイント」、学内資源をウェブサイトで公開する「デジタルアーカイブ」の四つの機能で構成されます。

今回オープンしたのは、市ヶ谷キャンパス九段北校舎1階に設けたミュージアム・コアとデジタルアーカイブです。

HOSEI EYE

法政の「いま」をお伝えします。

法政大学公式ウェブサイトが リニューアルオープンしました

2020年3月16日(月)に、法政大学公式ウェブサイトがリニューアルオープンしました。

見やすさ、分かりやすさを第一に考えたレイアウトに刷新し、「法政大学のいま」と、研究力や教育力などを積極的にお伝えします。

「大学全体としての取り組み」に関する情報を中心に、写真付きで紹介していきます。

また、市ヶ谷、多摩、小金井の各キャンパスサイトでは、キャンパスごとに特色のあるお知らせや情報を発信していきます。

なお、リニューアルに伴い、2020年度に発行する広報誌「HOSEI」より、全ページを大学公式ウェブサイトにて公開する予定です。

トップページ

見やすく、分かりやすいレイアウトに刷新した法政大学公式ウェブサイト



- 1 【対象者別メニュー】それぞれの方に向けたコンテンツをまとめた、入口メニューです
- 2 【法政ポータルサイト】本学のシステムやサイトがまとめられたポータルサイト(在学生対象)です
- 3 【PickUP!】本学の研究や教育などに関する情報をピックアップしてお届けします

教員紹介ページ

(左メニューの「学部・大学院・付属校」→「教員紹介」を選択)



教員紹介ページでは、所属(学部や大学院など)や氏名の五十音順で、教員情報の検索ができます



法政大学公式ウェブサイト
<https://www.hosei.ac.jp/>

キャンパスサイト

(トップページ下段、トップページ上段のメインビジュアルより選択)



新しくなった市ヶ谷、多摩、小金井のキャンパスサイト。キャンパス独自のお知らせや情報を発信します

イベント・行事ページ

(トップページ中段)



3種類の方法(1)実施日が近い順(2)新着順(3)カレンダーで日付指定)で、これから行われるイベントや行事を確認できます

※法政大学公式ウェブサイトの画像は、パソコンからアクセスした際の画面例です。

HOSEI 4 Contents

communication magazine 2020

- 02 HOSEI EYE 法政大学公式ウェブサイトがリニューアルオープンしました
- 03 2020年4月「HOSEIミュージアム」がオープンしました
- 04 特集 よこそ法政へ 2020年新生へメッセージ
法政大学総長 田中優子「自由を生き抜くことのできる世界をめざしてください」
- 06 15の学部長から新入生のあなたへ
法学部長：中野勝郎 / 文学部長：小秋元段 / 経済学部長：鈴木豊 / 社会学部長：島本美保子 / 経営学部長：佐野哲 / 国際文化学部長：衣笠正晃 / 人間環境学部長：梶裕史 / 現代福祉学部長：水野雅男 / 情報科学部長：藤田悟 / キャリアデザイン学部長：佐藤厚 / デザイン工学部長：網野慎昭 / 理工学部長：木村光宏 / 生命科学部長：山下明泰 / GIS (グローバル教養学部) 長：新谷優 / スポーツ健康学部長：平野裕一
- 12 卒業生インタビュー
「これまでに得た知識・経験を総動員し、未知の領域に挑んでいます」
公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
総務局 人事部 人事制度課 北川 祥大さん
- 14 ESSAY
「青少年の薬物乱用を防ぐために」スポーツ健康学部スポーツ健康学科 教授 鬼頭 英明
- 16 HOSEI PHRONESIS VOL.29
「電気・電子回路で生物の仕組みを模倣 医療工学分野での社会貢献を目指す」
理工学部電気電子工学科 教授 鳥飼 弘幸

- 18 MY CAMPUS, MY LIFE
国際文化学部国際文化学科 曾士才教授ゼミ / 法政大学チアリーディングチーム GRANDS
- 20 Message 「譲れないものを探そう学生生活に」
法学部政治学科4年 堀井 隆太郎さん (法政大学応援団第95代団長)
- 21 THE SCENE VOL.121 ハンドボール部
- 22 後援会だより「新入生保護者の皆さまへ」
- 26 HOSEIミュージアム VOL.011
学生フェンシングの黎明～フェンシング部の創設者・渋谷忠三～
- 27 校友会だより
- 28 HOSEI TOPICS
- 30 2019年度自由を生き抜く実践知大賞 1
- 31 BOOKS

COVER 多摩キャンパス 撮影：平野太呂
多摩キャンパスの入り口付近にある桜並木は、同キャンパスの名所の一つになっています。満開の桜が新年度の始まりを感じさせてくれます。

特集 ようこそ法政へ

2020年新入生へのメッセージ

自由を生き抜くことのできる 世界をめざしてください

法政大学総長 田中 優子

皆様、入学おめでとうございます。
皆さんは今年、大学に入学することができました。しかし大学に入るための能力は、皆さんがもっている多様な能力のごく一部なのです。法政大学では教員たちが皆さんの能力をもっと伸

ばそうと、様々な方法で授業をおこな
い、学びのコミュニティを作っています。
大学で皆さんは自分とは異なる多
様な考え方と出会うこととなります。
これが大学で学ぶことの大きな意味で
あり、能力を伸ばす条件なのです。皆
さんがやがて出て行く世界は、もっと
多様だからです。

皆さんを指導する基盤にあるのが、
法政大学憲章です。その中から、法政
大学が大切にしている言葉を取り出し
てみます。「人々の権利を重んじ、多
様性を認め合う社会の実現」「真に自
由な思考と行動を貫き通す自立した市
民であること」「あらゆる立場の人び
とへの共感に基づく健全な批判精神を
もっていること」「社会の課題解決に
つながる実践知を創出し続けること」
です。これらの内容を象徴する言葉を、

法政大学憲章のタイトル、つまり社会
への約束にしました。それが「自由を
生き抜く実践知」です。法政大学は
「自由」をもっとも大切にします。「実
践知」とは、理想をもちながら、今い
るその場所で理想に向かって実践と知
性を積み重ねることによって、自分の
生き方を創っていくことです。

自由は、自分の心が閉じ込められて
いる狭い世界のシステムや構造や歴史
を知り、その外のもっと広い世界を見



Tanaka Yuko

1952年神奈川県生まれ。1974年3月法政大学文学部卒業。1977年3月同大学院人文科学研究科修士課程修了。1980年3月同大学院人文科学研究科博士課程単位取得満期退学。1980年4月法政大学第一教養部専任講師、1983年4月同助教授、1991年4月同教授、2003年4月社会学部教授、2012～2013年度同学部長。2014年東京六大学で初の女性総長に就任。専攻は江戸時代の文学・生活文化、アジア比較文化。『江戸の想像力 18世紀のメディアと表徴』（ちくま学芸文庫）で芸術選奨文部大臣新人賞、『江戸百夢 近世図像学の楽しみ』（ちくま文庫）で芸術選奨文部科学大臣賞、サントリー学芸賞を受賞。近著に『江戸とアバター』（朝日新聞出版）など。

ることから始まります。私たちは誰し
も、時代や社会の価値観に縛られてい
ます。狭く固い「常識」という名の固
定観念はなかなか変わらず、特に日本
は「普通」という言葉で皆と同じにな
ることを求められます。しかしこれか
らは「常識」や「普通」として語られ
る世間の外に出て、もっと皆さん一人
一人の多様な能力や感受性、多様な発
想や価値観を伸ばす時代なのです。

大学では理解できない講義、書物、
人に出会ったときに、わからなくても
聴いてください、読んでください、対
話してください。それは今ある自分を
超えて、新しい世界を知り、新たな能
力や価値観が育つチャンスなのです。
自分を理解してくれない人と会った時
には、自分が何をどう感じ考えている
か、自分の言葉ではつきり語ってくだ
さい。意見が対立することはあるかも

しませんが、その過程なしに理解し
合うことはできません。表現するため
の言葉が思い当たらない時は、たくさ
んの本の中から探してください。必ず
見つかります。
法政大学は皆さんが「自由を生き抜
く」ことを支えます。様々な実践を通
して、一人一人が、自由を生き抜くこ
とのできる世界をめざしてください。



Nakano Katsuro
1958年鹿児島県生まれ。1982年立教大学法学部卒業。1989年東京大学大学院法学政治学研究科単位取得退学。博士(法学)。放送大学助教授、北海道大学教授を経て、2000年本学兼任。専門はアメリカ政治史。

ご入学おめでとうございます。法学部は、みなさんが「世界(コスモス)」から連れ出され、迷い、そうして、新しい「世界」への道を見つげだす場所です。今までの意味に満ちた「世界」——みなさんが生きていくために「よるべ」としていた常識、先入観、価値観、観念など——は、ここでは通用しなくなるかもしれない。なぜなら、そこは人と人がより良く共存していく術をみつげるために、人と人とを繋げる最良の手段である「言葉」を徹底的に疑い、吟味し、再解釈していく場所だからです。「言葉」は人間や社会を観察し分析するための「顕微鏡」。良く研磨された鏡を持つほど、「もの」はより正確に捉えることができます。それ自体は不確かな道具である「言葉」をそのように磨き上げることによって、みなさんは、失われるかもしれない「世界」を、そこに新しい意味を満たして取り戻すはず。呪力を失った魔女のキキが再生したように。ようこそ、迷宮へ。

*スタジオジブリ製作のアニメーション映画「魔女の宅急便」の主人公

法学部 迷宮へようこそ

法学部長 中野勝郎 教授



Koakimoto Dan
1968年東京都生まれ。慶應義塾大学文学部卒業。同大学院博士課程単位取得退学。博士(文学)。1998年本学兼任。専攻は日本中世文学、書誌学。近年は四川外国語大学客員教授を務めるほか、中国の大学との教育交流に携わる。

新生の皆さんが3年生となる2022年に、文学部は創立100周年を迎えます。日本に数ある文学部の中でも、100年の歴史を有するところは稀少です。本学の文学部は大正デモクラシーの気運を受け、自由な学風を旨として創設されました。その後、今日まで発展できたのは、ユニークな教授陣のもと、個性的な卒業生を数多く輩出してきた実績によるといえます。しかし、同時に、人文科学的な知を体系的に学ぶ場が、どのような時勢にあっても、社会の良識が求めてきた結果でもあります。文学部で学ぶ学問領域は、いずれも悠久の歴史をもつものです。長い年月をかけて鍛え抜かれた知は、現在と未来を生きるうえで鑑にほかなりません。2020年の春は残念ながら、不安で深刻な時節となりました。しかし、このようなときこそ、私たちは歴史に裏づけられた知を修めることにより、冷静に向きあつてゆくべきでしょう。

文学部 歴史的な知を鑑として

文学部長 小秋元段 教授



Suzuki Yutaka
1963年千葉県生まれ。東京大学経済学部卒業。同大学院経済学研究科第2種博士課程修了。経済学博士。1995年本学兼任。2004年より教授。2017年より経済学部長。新書は「中国経済の制度分析：契約理論・ゲーム理論アプローチ」日本評論社、2020年。

皆さん、入学おめでとうございます。経済学部は今年、創立100周年を迎えます。この「歴史と伝統」ある学部で皆さんが学ぶ経済学は「社会科学の女王」と呼ばれ、現代社会の多様な問題を、俯瞰的な立場で、科学的に分析する学問です。従って、経済学を学ぶことで、世の中の仕組みを本質的にとらえる眼(もの)の「見方」を養うことができます。経済学部は積極的に改革を行い、学習効果が上がるといえるカリキュラムを設計し、実社会で役に立つ科目も豊富に揃えて、皆さんをお迎えします。ただ、最も大切なのは、皆さんの4年間の過ごし方です。ぜひ大学教育は自分への投資だと考えて、コストをかけて自分の能力を高めていってください。チームで協力して課題解決する体験も貴重な投資です。こうした投資を積み重ねれば、人的資本(自分の能力)が高まり、就職・卒業時、ひいては将来、大きな満足を得ることができます。投資を積み重ねて成長し、大きく羽ばたいてください!

経済学部 経済学部は今年、創立100周年!

経済学部長 鈴木豊 教授

Tama Campus



Ichigaya Campus



Koganei Campus



社会学部

こんな時こそ社会が見える

社会学部長 島本美保子 教授

ご入学おめでとうございます。新型コロナウイルスの感染拡大で、皆さんの日常生活がさまざまな影響を受け、お見舞い申し上げます。このような時は周りの社会システムについて普段見えなかったことが明らかになり、社会変革が進むこともよくあります。阪神淡路大震災や東日本大震災を契機に、災害ボランティアのシステム構築が進んだとか、原発事故を契機に、日本の電力産業の構造改革がスピードアップしたとか。そういう局面では、国の政治や経済について誰もが無関心でいられなくなるでしょう。社会学部では、それらも含めて「社会課題の解決」について、さまざまな知的アプローチを行うための知識や教養、社会科学のツールを学んでいきます。

災厄は決して喜ばしいことではありません。しかし「災い転じて福となす」という諺もあります。ぜひ若い皆さんと学問を通じて、時代の変わり目に社会について、ともに考える日々を楽しみにしております。



Shimamoto Mihoko
1965年京都市生まれ。慶應義塾大学経済学部卒業。同大学院博士課程単位取得退学。博士(経済学)。1994年本学兼任。2005年より教授。専門は環境経済学、森林の持続可能性と貿易、資源貿易の政治経済学。

人間環境学部

現場での
体験的な学びを生かそう

人間環境学部長 梶裕史 教授

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。この学部は、持続可能な未来社会を築くことを目指す、文系の総合政策学部です。

「人間環境」という言葉には、人間と自然環境との共生といった狭い意味の環境問題にとどまらず、人と人との平和的な共存の願いも含まれています。

世界中の人々が、大切にしていきたいものをずっと長続きさせるためには、「学際」といって、今までの個々の専門分野の枠を超えた、統合的な学びが必要です。幅広い知識を、自分の「軸」に有機的なつながりを持って結びつけるために、現場での実感的、実践的な体験が重要です。教室での学びだけでなく、社会の現場(フィールド)体験も生かす学びが、この学部には用意されています。

地域社会や国際社会の、グローバルかつローカルな課題解決に向けて、自分だけの力ではなく「協働」して、100年先も子どもたちの笑顔があふれる社会を共創することを目指して、一緒に学んでいきましょう。



Kaji Hiroshi
1960年神奈川県生まれ。1983年慶應義塾大学文学部国文学専攻卒業。1990年同大学院博士課程修了。修士(文学)。1996年本学兼任。専門は日本文学の民俗学的研究、景観論。趣味は海の旅、シュノーケリング。

経営学部

「変化」の中へダイブ!

経営学部長 佐野哲 教授

本当に頭の良い人間、圧倒的な勝利者は、いつも変化の中から現れます。聡明で、長く生き残り、勝ち続ける勝利者は、力の獲得や行使ではなく、変化への適応を実践します。

もし、あなたもそうありたいと思うのなら、その「学びのスタイル」を学ばなければなりません。彼ら、彼女らは身の回りの変化に敏感で、変化の全体構造を分析し、歴史を学び、変化の展開を予測しながら、合理的な判断を下していきます。個人の、社会の様々な利益を求めて、躊躇なく自らを変化させ、選択される個体へと進化して行きます。

変化を探し、変化へ飛び込み、変化に影響され、変化から学んで、自らを変え、そして反応を見る。学びは、そんなフィードバックループを常時接続のまま回転させることで得られる。変化が多様で、革新的であればあるほど、学びのサイクルは加速され、その個性は短時間で圧倒的な成長を遂げる。さあ、変化の中に飛び込む用意はできていますか?



Sano Tetsu
1964年福島県生まれ。日本大学経済学部卒業。一橋大学博士。政府機関を経て2003年、本学兼任。学部では経営社会学の講義を担当。医療分野への応用研究が評価され、学外では病院経営者や現役医師に医療経営学を講ずる。

現代福祉学部

豊かさや幸せのモノサシ

現代福祉学部長 水野雅男 教授

本学部の教育理念はウェルビーイング(健康で幸福な暮らし)の実現。「豊かさや幸せとは何か」を探求し続ける姿勢が大切です。

我が国はこれまで著しい経済成長を遂げ、モノに不自由することがなく、人の移動や物流が格段に効率化しました。では、果たして今日の社会は、豊かで幸せと言えるでしょうか。私たちが生活する現代社会は、VUCA(不安定、不確実、複雑、曖昧)という言葉で表される予測困難な時代だと言われています。社会で起きているさまざまな問題を多面的に観察するためのモノサシが必要ですし、さらに社会現象の根源や本質を見抜く「直感」が重要な役割を担うでしょう。

「直感」としてもパワフルだ。知力よりもパワフルだと思う(ステイプ・ジョブズ)。講義等を通じてしっかりとしたモノサシを持ち、積極的にフィールドワークに出掛けて社会を観察することで、豊かさや幸せを高めるための「直感」を養ってください。



Mizuno Masao
1959年石川県生まれ。東京工業大学大学院社会工学専攻修了。金沢にて地域計画事務所を設立し、市民主導のまちづくり活動を多数主宰。金沢大学を経て2011年本学兼任。ティアニー財団賞受賞。技術士(建設)、博士(学術)。

国際文化学部

「当たり前」を超える思考を

国際文化学部長 衣笠正晃 教授

ご入学おめでとうございます。国際文化学部では、学部の英語名にある「異なる」文化間のコミュニケーションを実践できる人の育成を使命としています。2年次でのSA(スタディ・アブロード)やSJ(スタディ・ジャパン)はわかりやすい異文化体験の機会でしょう。さらに異文化は皆さんのごく身近にも存在しています。大規模大学である法政では、これまで以上に多様なバックグラウンドや考え方を持つ学友と出会えるはずですよ。

どのようなかたちであれ、異文化体験において大切なのは、「自分にとっての『当たり前』が、他者にとってそうだとはいえない」というわきまえを持つことでしょう。他者の立場や視点から自文化を客体視し、また共感と敬意をもって他者の文化を理解すること、さらには自文化と異文化の間にわれわれが境界線を引いていることの意味について考えること。こうした課題にこれからの大学での学びと学生生活を通じて取り組んでください。



Kinugasa Masaaki
1965年兵庫県生まれ。東京大学教養学部教養学科卒業、同大学院総合文化研究科博士課程満期退学。フルブライト奨学生としてコロンビア大学大学院に留学。MPhilを取得。2001年本学兼任。専門は比較文学・比較文化。

情報科学部

情報が拓く未来の世界へ

情報科学部長 藤田悟 教授

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。新しい生活が始まります。未来の自分を磨くために、自らの行動に責任をもちながら、様々なことに挑戦してください。

初めてキャンパスに通い、新しい友人を作る時に、皆さんは、ネットで検索したり、SNSで情報交換したりすることで、これだけ身近になった「情報」は、どのように作られて、どのように伝えられているのでしょうか。

情報は、生活の中、社会の中、そして、自然の中に、様々な形で存在しています。それらを分析し、わかりやすいように加工して、皆に伝えます。このような仕組みを大学では学べます。身の回りに起こることをよく観察して、皆さんの発見と創造によって、未来を見つけてみましょう。

大学での学びは、皆さんの将来の糧となり、友は将来の宝になります。4年間の成長を楽しみにしています。



Fujita Satoru
1961年静岡県生まれ。1984年東京大学工学部卒業。1989年同大学院工学系研究科博士課程修了。工学博士。日本電気株式会社を経て、2008年本学兼任。専門は人工知能、サービスシステム。



Yamashita Akihiro
1957年茨城県生まれ。早稲田大学理工学部卒業。民間研究所などを経て、テキサス大学オースティン校大学院博士課程修了 (Ph.D.)。帰国後、二つの大学を経て、2013年より本学教授。専門は生体化学工学。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。法政大学は「自由と進歩」を学風としています。「自由」は「責任」に裏打ちされた言葉であり、「進歩」は「着実」でなければなりません。この4年間は大人への道を歩む皆さんにとって、貴重な時間となるでしょう。山登りの登山口がたくさんあるように、生命科学部へ入学された皆さんは、それぞれの分野を学ぶことで、頂上を目指すことになり。その道は、登山同様、楽しいことばかりではなく、「きつい」と思うこともあるかもしれません。だからこそ頂上から見える景色は、きつと素晴らしいのです。

生命科学部には、実に幅広いカリキュラムが用意されています。一つのこと懸命に取り組んだ後に得られる成果は、うまくいったときはもちろん、そうではないときでさえも、皆さんを大きく成長させてくれるでしょう。校歌にある「よき師よき友」に巡り合えるチャンスは、今皆さんの目の前にあるのです。

キャリアデザイン学部

自分の知の羅針盤を作ろう

キャリアデザイン学部長 佐藤厚 教授

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。皆さんには今の新鮮な気持ちを忘れず、いてほしいと思います。

生き方、働き方、学び方が多様化している現代社会においては、何を学び、どう働き、どう生きるのか、時に人は迷います。そんなときに大切なのは、自分なりの知の羅針盤です。羅針盤は未知の世界に進もうとするときに、進むべき方向を示してくれるものです。混迷が続く現代社会で、皆さんが、卒業後の人生に踏み出すために必要な知の羅針盤を作り上げてほしいと願っています。

キャリアデザイン学部は、教育、ビジネス、ライフの三つの領域を柱として学べる学際的な学部です。「キャリア」とは、さまざまな人が出会い、さまざまな経験をjする「人生」そのものです。キャリアデザイン学部では、教室での学びだけでなく、国内外でのさまざまな体験学習を重視しています。

さあ、皆さん、自分の羅針盤を手に大海原にこぎ出していきましょう。



Sato Atsushi
1957年北海道生まれ。本学大学院社会科学部研究科社会学専攻博士課程修了。博士(社会学)。労働政策研究・研修機構、同志社大学大学院総合政策科学研究科教授を経て、2008年より本学教授。専門は産業社会学、人的資源管理論。

デザイン工学部

この転換点に立ち

デザイン工学部長 網野禎昭 教授

入学おめでとうございます。

皆さんは、新型コロナウイルスの感染拡大という出来事に世界が動揺する中で大学生活を始めることになりました。大変残念な事態ですが、そこから学ぶこともあったと思います。普段は便利な世の中が、これほどまでに脆いのかという学びです。大都市は境なくつながり、公共交通網が張り巡らされています。おかげで便利になりましたし、経済も活性化しました。反面、人口集中や通勤混雑の問題などの負の側面も生まれました。その危険性は長らく指摘されてきたにもかかわらず改善が進まず、大地震やこのような事態の度に無策が悔やまれます。人類は過去連綿と災害や病気と闘いながら文明をつくってきました。私たちも、この危ういメガロポリスを安心できる街に作り変えてゆかなくてはなりません。デザイン工学部で、建築、都市環境、ものづくりを学ぶ皆さんにとって、この度の災禍が未来を考える大切な出発点となるはずです。



Amino Yoshiaki
1967年静岡県生まれ。早稲田大学理工学部卒業。東京大学大学院修士課程修了。スイス連邦工科大学ローザンヌ校にてDr. ès sciences。ウィーン工科大学を経て、2010年より本学教授。専門は木造建築。

Make your future self proud of you!

GIS(グローバル教養学部)長 新谷優 教授

and watching TV, but take a moment to imagine what the person you become in 30 years wishes you had done. Your future self will look back and be proud if you acquire new perspectives, learn complexities of global societies, master skills to identify and critically analyze current issues, and make lifelong friendships. Developing yourself in these four years will help to create a happy and meaningful society for us all. You only have one chance, make the most of it.

Welcome to Hosei University! Your four years here will constitute, on average, only 5 percent of your life. However, one day you will marvel at how these four years leave an ever-lasting impact on your future. How best can this time at Hosei be spent?

You are at a unique point in your life: society is affording you the chance to spend all of this time on yourself and you are not yet expected to contribute anything back. Yes, this means you could waste an entire day rolling on your bed



Niiya Yu
Born in Japan and raised in Switzerland, Yu Niiya earned her MA in Social Psychology at the University of Tokyo and her PhD in Social Psychology at the University of Michigan. She joined Hosei when GIS was established in 2008. She has studied the role of interpersonal motivations in prosocial behaviors across cultures.

理工学部

知的好奇心こそが原動力

理工学部長 木村光宏 教授

新入生の皆さん、理工学部へようこそ。いよいよ大学での学びがスタートします。さて、我々の社会が抱える問題には、答えが見つからないものや、答えが一つとは限らないもの、一方にとって最適な解だとしても他方にとってはそれが最適ではないものなど、皆さんがこれまで解いてきた問題集、受験参考書などには載っていないようなタイプのもものが、非常にたくさんあります。理工学部は、皆さんがそれらについて、まずは問題を発見しそれを理解して、必要な情報や素材を見極め、最適解を構築した上で提案し、更にそれを実現できる高度な人材となるための手助けをします。それには皆さんが決して受身の姿勢ではいけません。これから始まる講義や実験、実習などを通して手にしていくことになる知的な道具や知識と知恵を、そして確かな技能と人としての魅力を常に磨いてくれることを期待します。そして知的好奇心こそがその原動力であることを忘れないで下さい。



Kimura Mitsuhiro
1964年広島県生まれ。広島大学工学部第二類卒業。同大学院工学研究科システム工学専攻博士課程修了。博士(工学)。2001年9月本学着任。専門は信頼性工学、応用統計解析。

スポーツ健康学部

自ら判断し、行動してください

スポーツ健康学部長 平野裕一 教授

入学おめでとうございます。

最近の競技スポーツのコーチングでは「アスリート・セントラード・コーチング」と称して、アスリートを最優先にする考え方が広まっています。そのコーチングでは「アスリートの人格を大切にする」「やりがいを大切にする」「自身に考えさせて選択させる」「学びを最適化する」などの要素が欠かせません。見方を変えれば、自分で判断して行動できるアスリートを育てようということです。

スポーツ健康学部では、ヘルスデザイン、スポーツビジネス、スポーツコーチングという三つのコースを横断的に学べます。その上、一つのコースの専門性を深められるという、皆さんの学びを最適化するカリキュラムが備えられています。皆さんは教員や先輩をコーチと思い、自ら判断し、行動するアスリートになってください。そして、さまざまな可能性が秘められた大学生活の中で、より質の高い生活を営むために必要な能力を身に付けてください。



Hirano Yuichi
1953年東京都生まれ。東京大学教育学部卒業、東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学。東京大学大学院、国立スポーツ科学センターを経て2016年本学着任。専門はスポーツバイオメカニクス、トレーニング科学。



HOSEI
Graduate Interview
卒業生
インタビュー

これまでに得た知識・経験を総動員し、未知の領域に挑んでいます

公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

総務局 人事部 人事制度課 **北川 祥大**さん

東京都庁からの出向で、東京2020オリンピック・パラリンピックの組織委員会のスタッフとして大会準備に当たっている北川祥大さん。大学祭の経験や読書で得た知識が、現在の仕事にとっても役立っていると言います。

このページでは、法政大学憲章の「自由を生き抜く実践知」を体現している本学の卒業生を紹介していきます。

大会の成功に向かって
混成チームが日々奮闘中

1年前から、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、大会スタッフの安全衛生管理とダイバーシティ&インクルージョン推進を担当しています。この組織委員会は、国、都、地方自治体、民間企業、スポーツ団体などからの出向者が多くを占める混成チームで、私も都庁に入ったその日に出向を命じられました。最初は、メンバーがそれぞれの出向元の利益を優先するなど、対立構造があるのではないかと懸念していました。ところが実際は逆で、スタッフ全員が団結して大会を成功させるという目標に向かって動いているダイナミズムを日々肌で感じています。

東京2020大会は一度きりのもの。どんなに検討を重ねても「正解」が見えないなど、未知のものへの挑戦には怖さもありますが、やりがいも大きいです。現在の職場は障がいのある人や



東京2020オリンピック・パラリンピックマスコットのミライトワ(左)とソメイティ(右)が迎えるエントランスで

さまざまな文化を持つ外国人も多く、日本で最もダイバーシティな環境だと感じます。その中で多様な考え方や違いに触れ、各企業・団体のダイバーシティ&インクルージョンへの取り組みに関する知見を得られるのは、とても勉強になります。

ここで得た経験を大会後に私たちスタッフが元の組織へ、ボランティアの方々が地域へと持ち帰り、日本全体にダイバーシティ&インクルージョンのマインドが醸成されれば、インフラやスタジアムと同様に、東京2020大会の「レガシー」となることでしょう。

大学祭の実行委員会で身に付けた解決力

大学ではできるだけ多くの本を読み、創作も学びたいと考え、法政の文学部に進学しました。学部では根本昌夫先



大学祭の説明会の様子。壇上右が実行委員長の北川さん。

生から編集者の視点で、大学院では中沢けい先生から作家の視点で、文学や文芸創作、公共図書館の運営について教わり、読む力と書く力を培い、行政政策の基礎を学ぶことができました。学業以上に力を入れたのが、大学祭(自主法政祭)の実行委員会の活動です。大学との交渉、参加団体との話し合いなど、主張が対立する場を数多く体験して身に付いたのが、交渉力と解決力です。A案かB案かを選ぶのではなく、それぞれの要求を取り入れたC案を作り、全員が損や譲歩だけで終わらないようにする「止揚」の考えにもとづくアプローチを心がけました。そうはいっても苦労は多く、何度も実行委員会を辞めようかと思いましたが参加者や来場者が大学祭を楽しんでいる様子を目にするのが楽しみで、最後まで続けました。3年次に実行委員長を務めたこともあってか、卒業式の日にはキャンパスで多くの学生、教職員の方から「おめでとうございます」と声をかけてもらえて、それまでの苦労が報われた気がしました。

今の仕事は、安全衛生管理一つをとっても、職員の安全確保をはじめ、その先にいる競技会場や沿道の観客まで含めると数百万人という大勢の人の安全を考慮する必要があります。新型コロナウイルスへの対応もあり、その責任の大きさにふと不安を覚えることもあります。それでも、やっていけると思えるのは、大学時代の実行委員会です。得たさまざまな経験があるからです。

本から得た知識を実践力につなげていきたい

これまでに約5000冊の本を読みました。人は一つの人生しか経験できませんが、小説を通じてならいくつもの人生を経験することができます。また、新書や学術書、専門書を読めば、断片的ではあっても、相当量の専門知識を得ることが可能です。内容をすべて頭に入れるのは無理でも、「あれに書いてある」と知っていれば、いつかどこかで役に立つものです。

本は「生もの」というのが私の持論です。書店に並ぶ「旬」の本のうち、面白そうと感じるものには、往々にして自分に不足している栄養(興味や知識)が含まれています。読んで損をする本はまずないので、学生の皆さんも興味を持った本はぜひその場で購入し、早いうちに読んでみてください。

最近、本で知った言葉の一つに「ブリコラージュ(寄せ集めて作る)」があります。これは、何かを作ると決めて必要な素材を集めるのではなく、自分が持ち合わせている物を組み合わせて新しいものを創造するという概念で、



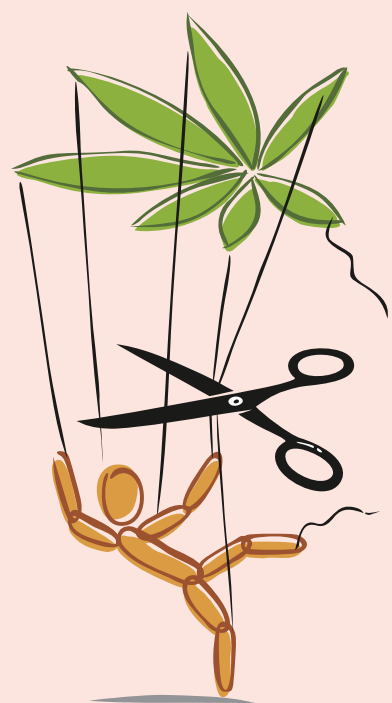
Kitagawa Shodai

1989年富山県生まれ。2013年3月に文学部日本文学科を卒業後、株式会社JTBパブリッシングに入社。その後、大学院人文科学研究科日本文学専攻修士課程を経て、一般社団法人 日本経営協会に入職。2019年4月東京都庁に入都後、公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会に出向。

私が追究する知識と実践の融合に通じるものがあります。東京2020大会は難しい局面を迎えています。大会の成功に向け、これまで得た知識や経験を総動員して、未知の領域に挑んでいます。出版社、ライター、大学院、そして行政コンサルタント、公務員と、いくつかの組織や業務を経験して、自分がぶれなければ、どの業界でもどの組織でも、活躍できると感じています。組織委員会の仕事を通じて、「世界」というキーワードが私の人生に加わりました。大会後も、世界を意識して、文化や知識の普及・啓発に取り組んでいきたいと思っています。

青少年の薬物乱用を防ぐために

スポーツ健康学部スポーツ健康学科 教授 鬼頭 英明



覚せい剤などの大量の薬物密輸や薬物乱用で捕まった芸能人などの話題が、ニュースで途絶えることなく取り上げられています。

厚生労働省の薬物乱用対策推進会議によれば、2018年の覚せい剤や乾燥大麻、コカイン、錠剤型の合成麻薬MDMAなどの摂取量はいずれも前年を上回っています。薬物事犯の検挙人員数では、特に大麻、コカイン、MDMAなどの錠剤型合成麻薬による事犯の増加が目立ちます。

日本では、こうした薬物乱用の問題が私たちの日常的な生活とは切り離された異次元の世界の話だと受け止められがちですが、青少年の薬物乱用は生涯を通じて健康の保持増進に大きな影響をもたらすことから、身近な問題として関心を持つことが求められます。

薬物乱用とその現状

薬物乱用とは「社会規範から逸脱した目的や方法で薬物を自己使用すること」とされています。違法薬物とは、覚せい剤や大麻、コカイン、MDMAなどの錠剤型合成麻薬などのことを指しますが、処方箋により受け取る向精神薬などの医薬品や一般用医薬品も、用法・用量に準じない場合には薬物乱用に相当することに留意する必要があります。

欧米諸国での青少年による薬物乱用は深刻な状況です。米国では2016〜2019年の高校3年生による大麻の生涯経験率（これまでに1回でも経験したことがある人の割合）が43・7%となっています。一方、2018年に実施された日本の全国高校生調査によれば、薬物の生涯経験率は大麻0・3%、覚せい剤

0・2%と低い割合にとどまっています。

日本における薬物乱用対策

日本では、1995年頃からの「青少年による薬物乱用の広がり」に対して、1998年に学校等における薬物乱用防止に関する指導の充実が図られ、「薬物乱用と健康」について、小学校の段階から高等学校まで発達段階に応じた継続的・系統的な指導が行われるようになりました。このことは、少なからず薬物乱用の増加に歯止めをかけている要因の一つと考えられます。

2018年に策定された厚生労働省の第五次薬物乱用防止五か年戦略においても、五つの目標の最初に「青少年を中心とした広報・啓発を通じた国民全体の規範意識の向上による薬物乱用未然防止」が掲げられています。同戦略では、啓発

対象年齢層に応じて、薬物乱用に関する基礎知識、薬物の具体的な危険性・有害性、薬物乱用への勧誘に対する対応方法など、より理解しやすい手法を検討しながら、効果的な啓発を実施する必要があります。さらに、青少年を中心に乱用が拡大している大麻や、今後流通し得る乱用薬物について啓発を強化する必要があるとされています。

大学生による薬物乱用については、社会人として一步を踏み出す時期でもあることから、個人の意思決定能力によってはリスクが伴う時期とも考えられます。関西の4大学が2018年に新入生を対象として実施した調査によれば、「薬物は入手可能か」との問いに対し、「手に入る」および「難しいが手に入る」という回答が合わせて56%となりました。このことは、身近に薬物があることを示すものであり、薬物に誘われたときにいかに断れるかが重要な分かれ道になるといえるでしょう。

カナダ、米国での大麻合法化の余波

2018年10月、カナダで大麻の使用が合法化されました。

カナダの日本大使館・総領事館は、日本人向けに、「日本では大麻取締法において、大麻の所持・譲受（購入を含む）等については違法とされ、処罰の対象となっている」「この規定は日本国内のみならず、海外において行われた場合に

あっても適用されることがある」「在留邦人や日本人旅行者は、これら日本の法律を遵守の上、日本国外であっても大麻に手を出さないように十分注意する」という注意喚起を行っています。

大学生になると、留学や夏休み、卒業旅行など海外に出かける機会が増え、海外の雰囲気のみ込まれて薬物乱用に踏み出してしまいかねないことから、しっかりと知識を持つことが大切です。

カナダが大麻合法化に至ったのには、大麻乱用の状況が深刻で、取り締まりの観点からその他の重大犯罪の摘発に大きく影響するなど、あまりに手に負えない状況となったという背景がありました。そこで、大麻の製造から使用までを管理下に置き、一方で若者が大麻を手に入れにくくなるよう、未成年者への大麻の販売を犯罪としたのです。米国でも、合法化している州がある一方で、救急搬送の増加などの弊害も指摘されています。

薬物乱用の危険性と対処方法

薬物乱用の問題は健康への影響にあり、薬物乱用を繰り返すことによって薬物依存に陥るとされています。薬物依存とは、薬物乱用を繰り返した結果、その薬物の使用に対する自己コントロールを失った状態を言います。

特に精神依存の場合は、その薬物の効果が切れてくると再び使いたいという渴望が湧いてきて、この渴望をコントロール

できずに薬物を使ってしまう状態となり、必ず「薬物探索行動」を起こすとされています。この行動には、薬物入手を目的とする犯罪も含まれていて、日本の覚せい剤事犯による再犯率は、2018年の調査では65・9%と極めて高くなっています。

依存の問題はアルコールにも当てはまり、こちらは精神依存に加えて、身体依存も引き起こすことが知られています。

薬物乱用に至る背景としては、①薬物乱用の恐ろしさに対する認識の甘さや誤り、②ファッション感覚、やせ薬、③甘い勧誘、④他人に迷惑をかけなければ個人の自由という考え方、⑤インターネットなどによる入手、⑥海外旅行や留学の機会での薬物経験などが挙げられます。

また、薬物乱用等の行為は、「好奇心」「投げやりな気持ち」「過度のストレスなどの心理状態」「周囲の人々の影響や人間関係の中で生じる断りにくい心理」「宣伝・広告や入手のしやすさなどの社会環境」などによって助長されるといわれます。

従って、こうした状況に対して、「避ける」など適切に対処できる力を身に付けることが重要です。特に、国際化の進展とともに東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、訪日外国人がますます増加することが予想される今、薬物乱用に対する警戒心を強めておくことがとても大切です。

Kito Hideaki

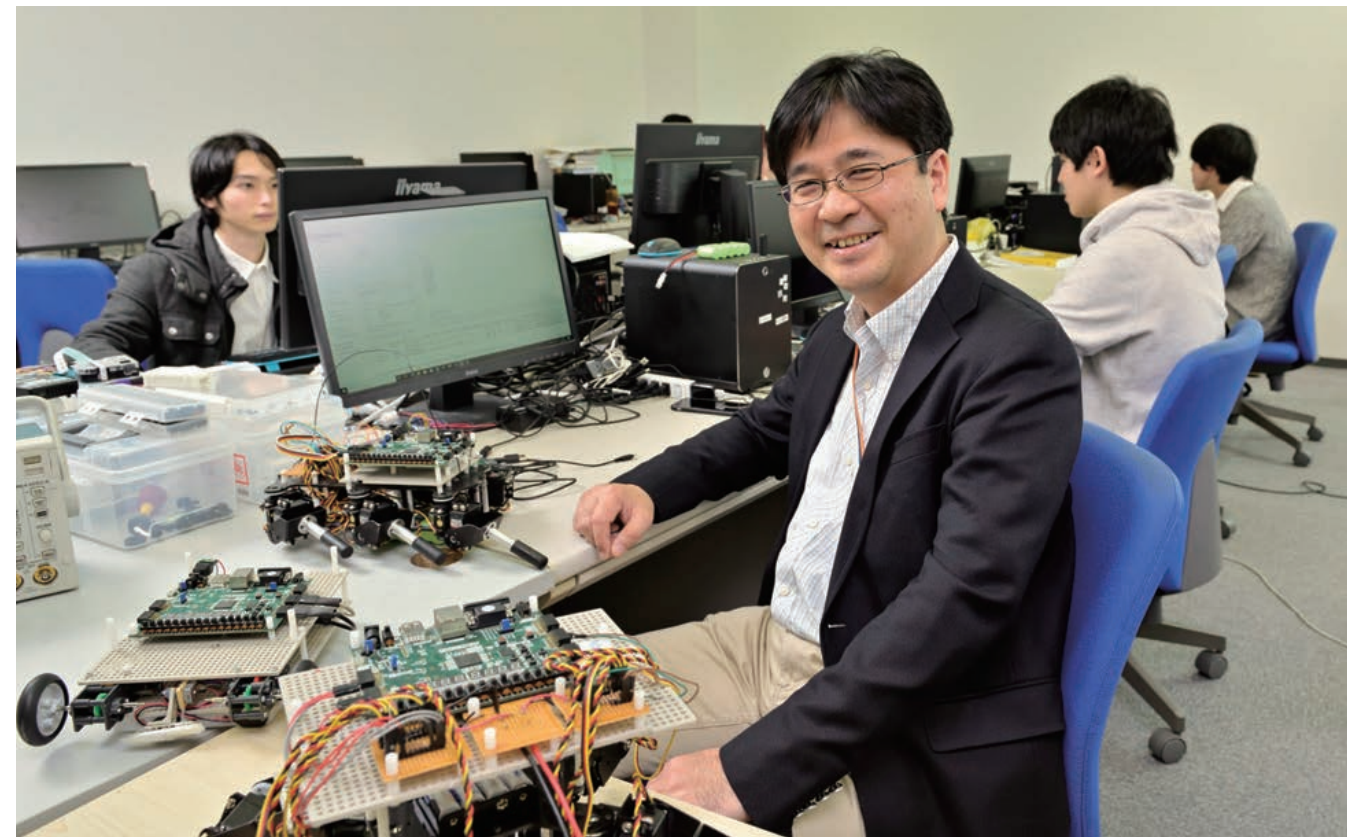
1954年7月、岐阜薬科大学大学院博士後期課程単位取得満期退学。1984年岐阜薬科大学において薬学博士を取得。同大学の助手、助教授を経て、1998年文部科学省体育局教科調査官、2001年スポーツ青少年局学校健康教育課健康教育調査官。2007年兵庫教育大学大学院教授、2016年4月より現職。専門領域は喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育をはじめとする健康教育、学校環境衛生等の環境管理。著書（共著含む）、論文に『健康教育の理論と実践—わが国と外国の事例をもとに—』（日本学校保健会、2018）、『小学校高学年の日常生活に関わる意思決定スキル尺度の開発』（学校保健研究、2019）、『看護学生へのライフスキル教育を踏まえた薬物乱用防止教育の教育直後と3か月後の教育効果の検証』（学校保健研究、2017）、『養護教諭—毎日の執務とその工夫—』（第一法規、2019）など。



電気・電子回路で生物の仕組みを模倣 医療工学分野での社会貢献を目指す

生物の動きを真似するような電気・電子回路の設計に取り組んでいる鳥飼弘幸教授。
耳や脳の機能を人工的に作り出すことで、不自由を軽減させる仕組みづくりの実現を目指しています。

理工学部電気電子工学科 教授 鳥飼 弘幸



内耳や脳の一部の機能を人工的に模倣する回路を設計

電気・電子回路（以下、回路）に関する研究が続いています。現在は、生物の仕組みを模倣する大規模集積回路（VLSI）の設計を手掛け、特に「耳」と「脳」の分野に注力しています。10代の頃から回路の設計に興味を持ち、基礎理論を深める研究に従事していました。ところが、2005年に参加した国際会議で脳の一部の働きをICで代用させようとする研究を知り、転機が訪れます。自分が長年手掛けてきた研究を、医療工学という応用分野で生かせる可能性に気付いたので。回路設計の成果の一つが「人工内耳」です。耳の最も内側にある内耳は、音を認識するために大切な器官で、外耳から入ってきた音の情報を電気信号に変換して脳に伝える働きがあります。その働きを大規模集積回路を用いて再現することで、内耳の異常で聴力を失ってしまった人も音を取り戻せるのです。人工内耳は既に実用化され、人との会話が可能なレベルまで進化しています。ただ、音の性質はクリアとはいえません。さらに聞き取りやすくなるように精度を向上させ、本来の人間の耳と同等の性能に近づけることを目指しています（図1参照）。

脳に関しては、中枢機能だけに仕組みは複雑で、一つの装置で全てをカバーするのは物理的にも困難です。そこで、多用途に使える万能基盤を作り上げ、回路を組み替えることで脳の一部を代用する仕組みを考えています。中でも、大脳内で記憶や空間学習能力をつかさどる「海馬」の働きに着目して研究を進めています（図2参照）。

脳内の海馬の動きを人工的に模倣する研究は、米国を中心に世界規模で進められています。私の転機になった2005年の国際会議ではラットでの実験でしたが、2018年には脳に障がいを持つ人を対象とした臨床へ向けた基本的な実験が行われ、わずかながら脳機能の向上が確認されたという検証結果が発表されています。今後、実用化を目指して、さらなる研究が進められるでしょう。回路設計の工夫で性能を上げる余地は十分に考えられるので、将来的な需要を見込んで先行研究を進めています。

多くの英知に支えられ、 創意工夫と知恵を生み出す

私の研究者人生は、法政大学から始まりました。途中、関西方面でキャリアを積み、2018年に母校に戻ってきました。学生時代から通う小金井キャンパスは、再開発されて校舎は様

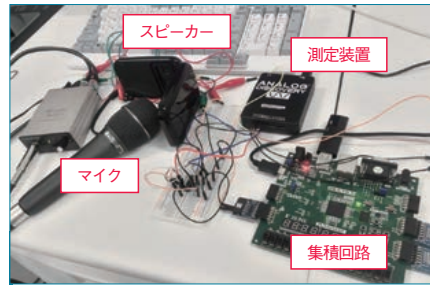


図1 人工内耳の回路設計のための実験装置。マイクで拾ったスピーカーからの音を、正しく電気信号に変換できているか、測定装置を用いて確認している

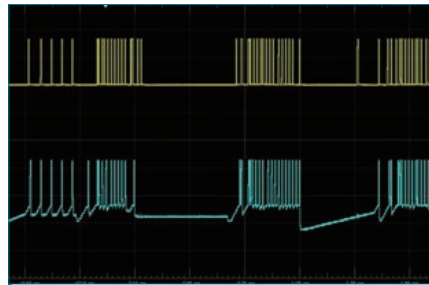


図2 人工的な海馬回路の測定画像。脳内の海馬の動きを波形で示す装置を用いて、動物実験で得られたデータと回路で作出したデータを比較し近づけていく



研究室の夏合宿は、学部生と大学院生が合同で開催。3年次は基礎力向上のため回路設計研修に励み、上級生はそれぞれが進めている研究内容を発表する

変わりましたが、学生らの雰囲気はあまり変わっていないように感じます。小金井キャンパスには、創意工夫と知恵で勝負していくような研究室が多いので、刺激を受けています。そうした研究スタイルを支えてくれる、法政の研究環境には感謝しています。生物機能を模倣することは、電気・電子工学の知識だけでは、実現できません。模倣したい機能の仕組みを理解し、体内の細胞や神経などにどのような影響を与えているのか、詳細に知る必要があります。それには、生物や医学分野のあまたの研究者が残してくれた成果や測定データの存在が不可欠です。それぞれの分野で研究者が蓄積してきた英知を結集し、社会に役立てていきたいと考えています。

基礎研究を積み重ね 一流の技術者を目指してほしい

生物機能の動きをそっくり模倣できれば、人工的に生物機能を作り出せることになりそうです。それは、医療工学だけでなく、さまざまな分野に応用できる可能性を秘めています。研究室でも、学生たちが応用研究を手掛けています。ロボットの電子脳を開発する取り組みでは、昆虫の脳を模した回路を設計し、六足歩行ロボットに昆虫のような

動きをさせることに成功しました。遺伝子情報を治療に役立てるゲノム医療、ゲノム創薬分野で活用するための「遺伝子シミュレーター」の設計開発に取り組んだ学生もいます。細胞内にある遺伝子やたんぱく質の動きが再現されるので、投与した薬が特定の遺伝子にどのように作用するのか、事前にシミュレーションできます。こうした応用研究を、社会に役立つ「実践知」として活用するためには、基礎研究を積み重ね、知の土台を強固にしておくことが重要です。しつかりとした基礎力がなければ、柔軟性のある応用力は働かせられません。

近年、中国やインドに代表される諸外国の研究活動の活性化が著しく、相対的に、日本の研究力は埋もれたような印象があります。これからは、研究現場も多様化、国際化が進むでしょう。日本の研究力を発揮するために、優れた技術者、研究者の育成は急務だと感じています。その一助を担えるように努めたいと考えています。

Torikai Hiroyuki
1973年兵庫県生まれ。法政大学工学部（現・理工学部）電気工学科卒業。同大学院工学研究科電気工学専攻修士課程、博士課程修了。博士（工学）。法政大学工学部情報電気電子工学科助手、大阪科大学大学院基礎工学研究科准教授、京都産業大学コンピュータ理工学部教授を経て、2018年4月より法政大学理工学部教授に就任。現在に至る。

※大規模集積回路：主に半導体を用いて無数の素子で構成される大規模な電子回路を基板上に実装した回路。VLSI (Very Large Scale Integrated circuit) とも呼ばれる。

人の移動や観光を切り口に、移民のコミュニティや国際文化を読み解く研究に取り組む曾士才教授ゼミ。学生たちは、自身の興味をテーマにして、フィールドワークを重視しながら研究を進めています。

「埼玉県川口市を事例として、外国人移住者と日本人は、どのように共存・共生しているのかを調べています」と語るのは渥美さん。「初めての研究活動は迷ってばかりで、基礎知識の重要性を痛感しました。今年はずっと調査を深めたい」と、反省をこらからの研究に生かします。

民泊による地方創生の可能性を探っているのは内山(香)さん。「広くアンテナを張って情報収集することを心がけました。民泊にもさまざまな方法があることを知ったので、次は農泊(農山漁村滞在型旅行)に目を向けて、調査を進めていきたい」と新たな活動への意欲に燃えます。

「現場に足を運び、当事者から直接得た一次情報を分析する現場主義が、このゼミの持ち味」と語るのは、内山(舜)さん。「外国人に日本語を教えるボランティアの育成」について研究を進め、その成果は国際文化学部内で毎年開催される国際文化情報学会で発表しました。「ゼミの代表として参加することになったため、みんなが準備に協力してくれました」と笑

ゼミナール・研究室

**当事者の声に耳を傾けながら
人が移動することで
創造してきた文化を読み解く**

国際文化学部国際文化学科 曾士才教授ゼミ



前列左から、川上かおりさん(ゼミ長)、曾士才(そうしさい)教授、内山香純さん、内山舜介さん、渥美佑理さん ※全員、国際文化学部国際文化学科4年

顔を見せませす。

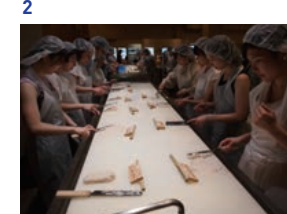
高校時代に参加したボランティア活動で曾教授を知り、国際文化学部への入学を決めたという嶋田さんは、まちづくりの一環でシェアサイクル事業に力を入れている神奈川県茅ヶ崎市を調査。「コミュニティサイクルが地方の観光を支える二次交通になり得るのか、その可能性を探ってみたい」と意欲に燃えます。

「模索しながらも、自分自身の力で活路を開く術を身に付けてほしい」と語る曾教授は、学生たちの研究を尊重しながら、ゼミ全体での学びも促しています。春学期は課外活動として、学生が興味を持って居る地域を訪れて歴史を学ぶ「街歩き」を実施。夏に開催する合宿では、観光客向けの体験に参加することで、その地域の特性を学びます。秋学期には卒業生のゲストスピーカーを招いて話を聞くのも恒例です。前回は、松本悟教授ゼミと合同開催し、混合ディスカッションへと発展しました。

「曾教授の人柄もあり、ゼミ内は親身になってお互いを思いやる雰囲気」が伝統的に受け継がれています。「と微笑むのは代表の内山さん。その伝統を大切にしながらゼミ活動を活気づけて、次の国際文化情報学会で賞を取れるような研究成果を残したい」と、やる気をにじませます。



1



2



3

1 2019年6月の「街歩き」は横浜で実施。華僑女性の服飾史イベントを見学し、横浜中華街を探索した 2 毎回、体験型観光の要素を取り入れている夏合宿。2019年はハーブ工房での石けん作り、かまぼこ作りなどに挑戦 3 2019年12月に国際文化学部内で行われた国際文化情報学会に参加し、研究成果を発表する内山(舜)さん

競技スポーツとしてチアリーディング(以下、チア)に取り組んでい

ます。紹介するのは宮崎さん。高校時代からチアリーディング部で活躍していた、チア経験者も多いGRANDS(グランツ)。その一人である宮崎さんは「経験者も初心者も学年も気にすることなく、明るくチアを楽しもうとする雰囲気がGRANDSの魅力です」と笑顔で語ります。

チアでは、ポジションごとに役割が分かれます。タワーの先端に立つ「トップ」、人が乗る土台となって支える「耐え」と「ベース」、3段タワーのような大技で2段目に入る「ミドル」、ベースを補助しながら全体の司令塔となる「スポット」。それぞれ役割を果たしながら、呼吸を合わせて技に取り組みみます。

トップを担当する田村さんは、「大学から始めた初心者なので、最初は苦労しました。何度練習してもうまく人の上に乗ることができず、悔しくて泣いたこともあります。それでも周りがずっと応援してくれて、初めて満足のいく演技ができた時は感無量でした」と思い出を振り返ります。

「耐え」と「ベース」を担当する多治美さんは「最初は重力を感じていましたが、今では慣れて、あまり重さも感じません。体幹を鍛えて、

クラブ・サークル

**信頼で心を一つに
お互いを支え合って輝く
競技チアリーディング**

法政大学チアリーディングチーム GRANDS



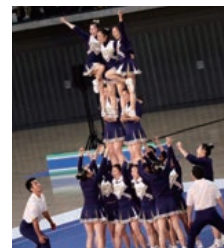
前列左から、村松茜さん(法学部政治学科2年)、田村和音美さん(国際文化学部国際文化学科3年)、坪内香織さん(法学部法律学科3年、代表)、後列左から、宮崎礼深さん(文学部地理学科2年)、多治美亜優さん(法学部法律学科2年)

自分の軸と上に乗っている人の軸を合わせるようにすると姿勢が安定するので、地面の上にいるみたいと言われるとうれしいですね」と頼もしさをにじませます。

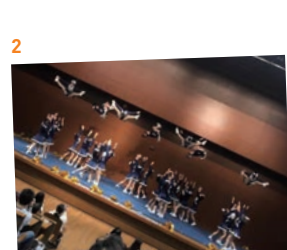
大学祭でのステージ、企業や地域のイベントへの参加などで演技を披露するほか、力を入れているのが大会への参加です。2019年は、創部14年目にして初めて6月の関東選手権大会(以下、関東大会)を突破。8月に全国から強豪が集まる「JAPANCUP2019日本選手権大会」(以下、全国大会)に出場を果たしました。中学時代からクラブチームに参加するほど、チアに魅了されている村松さんは「全国大会では本番前から気持ちが高揚して、自分でも驚くほど、体を楽に動かせました。今まで参加したどの大会よりも、充実感のある演技ができたと思います」と感動を思い出します。

「チアの演技は、ミスを出さないことが大切です。お互いを信頼して、気持ちを一つにしないとよい演技ができません。外部の指導者がいないことから、部員同士が教え合い、自由に見学を出し合えるようにしています」と語る、代表の坪内さん。「今年も全国大会への連続出場を目指します」との目標を語る言葉に、全員が力強くうなずきます。

1 大会では16人の選抜チームが2分30秒の時間内で技を披露する 2 大学祭は4学年の部員全員がそろった最後の舞台。市ヶ谷キャンパスのステージでは総勢40人で迫力ある演技を披露 3 多摩キャンパス大学祭での演技後の一枚。サークル活動を締めくくった4年生を囲んだ部員全員の笑顔がまぶしい



1



2



3

THE SCENE

大学有数の歴史と実力を誇る、法政大学体育会。
そんな伝統ある39体育会が日々活動しているワンシーンを、迫力あるカラーグラビアで紹介します。



ハンドボール部

撮影場所：多摩キャンパス総合体育館
撮影：田中伸弥

ハンドボール部は今年、創部80年を迎えます。男子部は、関東リーグ1部に所属しており、「2019年度全日本学生ハンドボール選手権大会(インカレ)」では、27年ぶりのベスト4という結果を残すことができました。2020年度はインカレ優勝という目標に向けて、日々練習に励んでいます。女子部は、現在関東リーグ2部Aに所属しています。「2019年度東日本学生ハンドボール選手権大会(東日本インカレ)」に初出場しましたが、惜しくもあと一歩でインカレへの出場権を逃しました。2020年度は、雪辱を果たすべく、インカレ初出場に向けて、全員が一丸となって練習に取り組んでいます。

Message

「自由な学風」の下で、自ら考え、
行動する学生の声を届けます。

譲れないものを探す学生生活に

法学部政治学科4年
法政大学応援団第95代団長

堀井 隆太郎 さん *Horii Ryutarō*

法政大学校歌の一節にこんな言葉がある。「進取の気象」——この意味をご存じだろうか。「従来の習わしにとらわれず、積極的に新しい物事に取り組んでいく気質」という意味である。

最近では、本当に多くの選択肢があり、特に大学はその選択肢が無限に広がっている。「進取の気象」の精神に則って、君たちにはぜひ多くのことに本気で挑戦してもらいたい。

そして挑戦していく中で、自身の譲れない信念や根の部分を見つけていってほしい。それらがなく、流れに身を任せたまましていると、結局最後は何も残らなくなってしまうのではないだろうか。

一方で、何かを見つけていることができたなら、大学時代はもちろん、卒業後も自身の核となり、全ての原動力になるはずである。

われわれ法政大学応援団は、リーダー部、吹奏楽部、チアリーディング部の3部から構成され、日々の活動には「礼儀・節度・闘志」の三原則を掲げている。

本年度は自ら考えて行動することに主眼を置き、東京六大学野球応援をはじめとする各種体育会応援や日々の活動に取り組んでいる。



それらの活動を通じて、私は応援団だけには留まらず、数多くの人と出会うことができた。体育会の勝利のために、誰かのために本気で熱くなることができた。さらに、誰かのために本気で何かをするには、自らを犠牲にしなければならぬことも知った。しかし、後から振り返ってみれば、その犠牲は何も苦しいものではなかった。

つまり、「人とのつながり」「人への熱い気持ち」そして「それらのためには自己犠牲を惜しまない精神」が応援団に入ってから私に降り着いた譲れないものだ。

私も3年前に広報誌「法政」4月

号のメッセージを読んだ。そのときは応援団に入ると思ってもいなかったし、団長になって、メッセージを寄稿することも想像していなかった。あのとき応援団という未知なる選択肢を選び、挑戦していく中で譲れないものが見つかったおかげで、ここまで来ることができた。

君たちも必ず見つけることができる。君たちはすでに譲れないものを一つ持っている。それは「法政大学」の一員であるということだ。

最後に新入生諸君、入学おめでとう。ようこそ法政大学へ。われわれ応援団は、諸君の挑戦を応援し続けている。

後援会だより

「子どもの母校は我が母校」
「後援会だより」は後援会が保護者の皆さまと作るページです。

新入生保護者の皆さまへ



法政大学後援会会長
渡辺康太

法政大学へご入学の皆さま、ご入学誠に
おめでとうございます。併せて、保護者、
ご家族の皆さまにも心よりお喜び申し上げ
ます。

法政大学後援会（以下、後援会）は学部
学生の保護者によって構成されるボラン
ティア組織であり、お子さまのご入学と同
時にご入会いただいております。

後援会は、戦後間もない1947年に、
荒廃した教育環境の立て直しを支援するた
めに、保護者らの手によって設立されまし
た。会員の中から選出された役員が、ボラ
ンティアで運営を支えています。

現在首都圏および全国36支部で約
2万8千人の会員数を有し、大学および同
学生の支援、会員相互の親睦を図ることを
目的として、さまざまな事業活動を行って
おります。主なものには、「学生と大学への

寄贈」「会員向け企画の充実」「広報活動の
推進」「自然災害等被災学生の支援」があ
ります。

毎年7月から10月にかけては、首都圏お
よび各支部で父母懇談会を開催します。こ
の懇談会では、田中優子総長または各学部
長の講演、大学職員による学習環境などの
説明を通じ、大学のビジョン、キャンパス
ライフ、留学・就職状況など、「大学の最新
情報」を発信しています。またスポーツ応
援では、HSC（法政スポーツコミュニ
ティ）活動への参加を通じ、「法政ファミ
リーの一員である喜び」を分かち合ってい
ます。

後援会活動の源泉は、子を思う純粋な親
心です。皆さまにご理解をいただき、今後
のご参加、ご支援をどうぞよろしくお願
い申し上げます。

*今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止に鑑み、変更場合があります



父母懇談会



東京六大学野球応援



大学への寄贈(バス)

2020年度 8月までの後援会行事について

後援会総会

法政大学後援会では会則第11条により、2020年度の総会を5月30日(土)に
開催いたします。

※今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、会員、役員の招
集の形態はとらず、書面での取り扱いといたします。詳細は、本誌に同封の書
類をご覧ください。

後援会支部総会・父母懇談会

法政大学後援会支部では例年7月-8月に支部総会・父母懇談会を開催してあり
ますが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、中止の方向で検討中
です。詳細につきましては、後援会ウェブサイト等でお知らせいたします。

新入生父母の集い(後援会支部)

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、開催を企画中の支部には中止を
要請中です。詳細につきましては、後援会ウェブサイト等でお知らせいたします。

その他の後援会行事予定等、最新情報は
随時後援会ウェブサイトにてお知らせいたします。
以上、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

法政大学後援会事務局

〒102-0073
東京都千代田区九段北3-2-3 法政大学九段校舎4F
TEL : 03-3264-9350
FAX : 03-3264-9367
E-mail : koenkai@hosei.ac.jp

後援会ウェブサイト
<https://www.hosei-koenkai.org/>



2019年度 法政大学後援会表彰

難関試験の合格者25人、スポーツ分野で優れた成績を残した4人、特に国際交流に貢献した外国人留学生3人に対して、表彰状と副賞が贈られました。

後援会賞受賞者(学術分野)

公認会計士試験合格
法学部4年
齋藤 太郎
このたびは、名誉ある賞を頂き光栄に思います。支えてくれた両親、先輩方、先生方への感謝を忘れずにこれからも努力を惜しまずにプロフェッショナルとして活躍していきたいと思えます。

公認会計士試験合格
経営学部4年
船見 謙太
合格できたこと大変うれしく思います。一流の公認会計士になれるよう今後も日々努力していくとともに、お世話になった方々に少しでも恩返しができるよう頑張ります。

公認会計士試験合格
経済学部4年
武田 海成
このたびは名誉ある賞を頂き、大変光栄に思います。今後も自分の中で目標を立て続け、その目標を達成できるように自己研さんに励み、成長を続けていきたいと思えます。

公認会計士試験合格
経営学部3年
勝又 健太郎
会計士試験を通しての一番の思い出は、応援してくれた家族・友人・先生などの期待に応えることができたことです。今後はこの賞に恥じぬ公認会計士になりたいと思っています。

公認会計士試験合格
経営学部4年
浦 大海
学生としてやりたいことを何一つあきらめず合格できたのは、大学関係者、先生、家族の支えがあったからです。その感謝を胸に、日々精進し、社会に貢献したいと思えます。

公認会計士試験合格
経営学部3年
長谷川 凜
このたびは後援会賞を頂き、ありがとうございます。これからは、就職した監査法人で、法政大学の名に恥じない立派な公認会計士として活躍したいと思えます。

後援会賞(学術分野)は、掲載者以外に2人の受賞者がいます。学年はすべて、2020年3月時点のものです。

公認会計士試験合格
経営学部3年
坂井 祐介
このたびは、後援会賞という名誉ある賞を頂き大変光栄に思います。公認会計士試験の合格をゴールとするのではなく、新たなスタートとして今後も努力し続けたいと思えます。

公認会計士試験合格
経営学部3年
伊藤 将也
私は中学から法政で学んできました。在学中に一発合格できたのも、法政の先生など、関係者が私を支え、育ててくれたからだと思えます。格別のご懇情を賜り厚く御礼申し上げます。

公認会計士試験合格
経営学部3年
小野 田陸
このたびは名誉ある賞を頂き、大変光栄に思います。公認会計士試験の合格をゴールではなくスタートとし、今後とも全力で成長していきたいと思えます。

公認会計士試験合格
経営学部3年
鈴木 玲央
受験時代は立ち止まるときもありましたが、たくさんの人に支えられて無事合格することができました。周りの人々の感謝と笑顔を忘れずに、今後とも頑張りたいと思えます。

公認会計士試験合格
経営学部3年
町田 素直
このたびは名誉ある賞を頂き、ありがとうございます。大学のサポートやゼミでの熱心なご指導の存在を忘れず、日本経済を支えられるような公認会計士になります。

公認会計士試験合格
経営学部3年
伊勢 健吾
このたびは、後援会賞という名誉ある賞を頂き大変光栄に思います。公認会計士としての使命を全うし、社会に貢献していくため、これからも精進していきたいと思えます。

公認会計士試験合格
生命科学部4年
宮松 優太
会計士としては珍しく、理系学部という経歴で合格できたのは、教授や多くの関係者の方々のおかげです。会計士はさまざまな人にチャンスのある資格です。ぜひチャレンジしてください。

公認会計士試験合格
経営学部3年
藤田 悠真
このたびは、名誉ある賞を頂き光栄に思います。多くの方々の支えにより、合格という結果を手に入れることができたのだと思えます。今後も常に向上心を持ち、日々研さんを重ねていきます。

公認会計士試験合格
経営学部3年
並木 勇太
このたびは名誉ある賞を頂き光栄に存じます。合格するまでに多くの方に支えていただき、大変感謝しております。今後も努力を重ね、社会に貢献できる会計士になりたいと思えます。

国家公務員採用総合職試験合格
法学部4年
福田 力
法政大学後援会賞というありがたい賞を受賞することができて、非常に光栄です。社会に出た後も、法政大学の員として活躍できるように頑張っていきたいと思えます。

国家公務員採用総合職試験合格
法学部4年
上條 鷹輝
このたびは名誉ある賞を頂き光栄に思います。不断の努力により合格することができました。助力して下さった方々の感謝を忘れず、社会に貢献していきたいと思えます。

国家公務員採用総合職試験合格
法学部4年
松浦 佳惟人
このたびは名誉ある賞を頂き、光栄に思います。周囲からの応援・支援があったからこそ受賞できた実感しています。感謝の気持ちを忘れずに、志高く、精進していきます。

国家公務員採用総合職試験合格
法学部4年
長坂 祥子
試験の勉強をした結果、将来つなげることでただでなく、このような賞を頂くことにもなり、大変うれしいです。この感謝を、社会への貢献で返していきます。

国家公務員採用総合職試験合格
法学部4年
安田 雅樹
このたびは名誉ある賞を頂き、大変光栄に思います。自分を信じ、最後まで諦めずにいたからこそ、合格することができました。この経験を生かし、今後も精進していきたいと思えます。

国家公務員採用総合職試験合格
法学部4年
奥野 法政
官庁訪問は失敗したので、掲載するか迷いましたが、法政大学の皆さんなら笑ってくださるだろうと思いき、載せていただきました。この経験を糧に、努力していきたいと思えます。

国家公務員採用総合職試験合格
文学部4年
加藤 威
このたびは、このような名誉ある賞を頂いたことを大変光栄に思います。社会人になっても、学生時代に努力をし続けた経験を糧に、精進していきたいと思えます。

司法書士試験合格
法学部4年
朝倉 隆三郎
このたびは名誉ある賞を頂き、大変光栄に思います。家族や先生方から受けた恩を忘れることなく、これから社会に出ても頑張っていきたいです。

後援会賞受賞者(スポーツ分野)

陸上競技部
スポーツ健康学部4年
豊田 将樹
このたびは素晴らしい賞をありがとうございます。今年度は全日本インカレ優勝や世界陸上出場など、最高の結果を残せました。今後は東京五輪に向けて頑張りますので、応援よろしく願います。

陸上競技部
生命科学部4年
青木 涼真
名誉ある賞を頂き、大変光栄に思います。文武両道を目指した4年間は、私の人生にとつての財産となると思います。この経験を生かし、次の目標に向かっていきます。

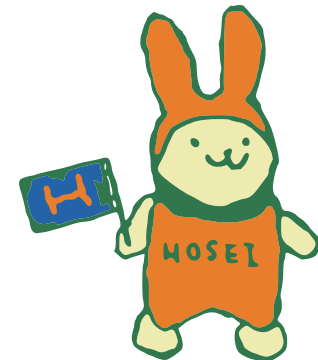
2015年度総留学生会会長
社会学部4年
鄭 允理
このたびは後援会賞を頂き大変光栄です。楽しい思い出も、歴史ある「留学生会」での活動は忘れられません。サポートしていただいたGIS、学部事務課の方々にお礼申し上げます。

2018年度総留学生会会長
社会学部4年
張子 騰
このたびは、名誉ある賞を頂き光栄に思います。留学生会の活動を通じて、違う文化を持つ皆さんの友達ができました。大学4年間に会った全ての人に感謝を申し上げます。

フェンシング部
法学部4年
敷根 崇裕
このたびは、名誉ある賞を頂き光栄に思います。全日本4連覇を成し遂げられたのも、法政大学に関わるたくさんの方々のおかげです。次はこの恩を後輩たちに送りたいと思えます。

サッカー部
スポーツ健康学部4年
長島 卓哉
サッカー部での活動や試合、サッカー教室を通して、多くの人に支えていただいていることを実感しました。感謝申し上げます。卒業後も、法政大学の価値を上げられるよう全力で頑張ります。

2017年度韓国留学生学生会会長
法学部4年
鄭胤 志
韓国留学生会への活動は、私の留学生生活を支えてくれた大きな原動力でした。グローバル教育センターの方々、そして法政大学の留学生の皆さん、ありがとうございます。





HOSEIミュージアム
HOSEI UNIVERSITY MUSEUM

学生フェンシング部の創設者・渋谷忠三

明治時代に軍刀術として日本に伝えられたフェンシング。スポーツとして親しまれるようになったのは昭和に入ってからで、その普及に貢献したのが、本学フェンシング部の創設者・渋谷忠三です。1932(昭和7)年、岩倉具視のひ孫・具清が留学先のフランスから帰国。東京・赤坂にフェンシング・クラブを開き、本学や慶應義塾大学の学生にフェンシング技術を教えます。その学生のひとり渋谷忠三です。

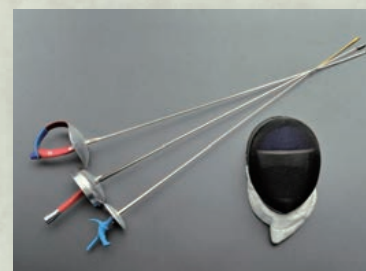
式にはフランス大使代理が出席し、岩倉と渋谷によるデモンストレーションも披露されました。翌年には、渋谷らが慶應義塾大学などに呼び掛け、大日本アマチュア・フェンシング協会を設立し、当時、国内オリンピック委員会として機能していた大日本体育協会へ加盟を打診します。ところが、「我国二剣道ナルモノガ厳然トシテ存スル」などを理由に却下された上に、第一回大会から正式種目であるフェンシングが東京オリンピックの競技種目から除外される方向へと話が進みます。そこで渋谷らは、日本初の学生対抗試合(法政対慶應)を開催し、近隣の大学でも指導に当たるなどして、フェンシングの普及に尽力しました。

国際オリンピック委員会(IOC)の働き掛けもあり、東京大会でのフェンシング開催が決定。出場選手を「全部法政色に」という決意で現役選手の指導に当たった渋谷の決意が実り、本学からは6人が代表候補に選出されます。ところが、時の戦局に翻弄されて、日本政府が開催を返上し、1940年東京オリンピックは幻に終わりました。戦時中、外来スポーツの排撃によりフェンシング部は活動休止を余儀なくされ、戦死した渋谷が戦後の復活を目にすることはありませんでした。

1 1936年経済学部卒業アルバムに写る渋谷忠三。後輩によれば「極めて温厚な稀に見る紳士」だった

2020年4月
HOSEIミュージアムが開館しました

オープニングテーマ展示
「HOSEIスポーツの原点」
100年にわたって切り開いてきた法政スポーツと、その原点を形づくった人物やエピソードを紹介
場所：市ヶ谷キャンパス九段北校舎1階
詳細：HOSEIミュージアムウェブサイト
(<https://museum.hosei.ac.jp>)



3 1973年の法政大学・関西大学定期戦記念ペナント(法友会フェンシングクラブの酒井裕幹専任所蔵)
3 法友会フェンシングクラブから寄贈された各種目の剣(上からサーブル、エペ、フルーレ)とマスク。テーマ展示では実物に触れることができる

校友会だより

一般社団法人法政大学校友会(以下、校友会)は、「法政ネットワーク」強化により校友憲章に謳っている「価値の創生・共創」を基本理念に、大学、後援会と手を携えて三位一体で諸事業を推進してまいります。

年度同期会や若手ネットワークにより校友会の基盤が盤石に

法政大学校友会は2014年4月、大手私立大学で初めて組織を法人化し、新しい時代に対応した方針に基づいて運営される組織へと進化しました。同年3月に年度同期会が発足すると、飛躍的に会員が増加し、強力なネットワーク組織が出来上がりました。

昨年には、20・30代の卒業生を対象に多種多様な企画を催す「法政オレンジコミュニティ」が発足し、若手のつながりを強化する環境も整備されました。この横のつながりを、やがて地域・職域・ゼミ・学部同窓会・課外活動団体といった縦のつながりに波及させることで、各組織の「足腰」の強化を図っていきます。

会員増加に伴い、校友会経由の寄付金制度も充実しています。この6年間の寄付総額は7300万円に上り、学生や大学の教育・研究・社会貢献の支援に使われています。

校友会では、卒業生の皆さまのために、毎年以下のイベントを開催しています。卒業生ならどなたでも参加できますので、ぜひご参加ください。

校友会3大イベント

2020年度の開催予定です。詳細は、法政大学校友会ウェブサイトや法政大学校友会報「オレンジジャーナル」でお知らせします。

第19回オール法政ゴルフ大会「総長杯」

各界のゴルフ愛好家が全国から200人近く参加し、総長杯を競います。趣味を通じて素晴らしい出会いを得てください。
日程：2020年9月7日(月)
場所：キングフィールズゴルフクラブ(千葉県)



※写真は、昨年度の様子です。

第28回法政大学全国卒業生の集い 栃木県大会

全国各地で開催され、各地の伝統や文化に触れ合う機会もあります。今年の会場は栃木県で、1日目が記念ゴルフ大会、2日目が大会式典、3日目がエクスカージョンです。
日程：2020年10月23日(金)～25日(日)
場所：宇都宮グランドホテル(大会式典)



2021年オール法政新年を祝う会

大学関係者、後援会、卒業生など総勢約1200人が一堂に会して新年を祝い、親睦を図ります。2020年は同フロアで20・30代の卒業生の交流会も開催され、大いに盛り上がりました。
日程：2021年1月31日(日)
場所：グランドニッコー東京 台場「パレロワイヤル」



法政オレンジコミュニティ(HOC)は、20・30代の法政大学卒業生が集うコミュニティです!

HOCでは、ネットワーク構築のための交流会、仕事・趣味で活かせるテーマのセミナー、スポーツ関連の企画をはじめ、さまざまなイベントを実施しています。2019年度の卒業生を含め、皆さんの参加をお待ちしています!

<2019年度に実施したイベント>

- ・2019年11月30日 第一弾イベント「HOSEI Casual Party」(市ヶ谷キャンパス)
- ・2020年1月26日 「卒業生異業種交流会」(グランドニッコー東京 台場)
- ・2020年2月23日 体育会ゴルフ部の部員によるゴルフ教室(東京都内ゴルフ練習場)



イベントの詳細や申し込みは、HOCウェブサイトより

社会学部青木ゼミの学生が「TOHOKU LOVE 2019 GAKUSEI MOVIE CONTEST」のPRムービー部門でグランプリを受賞

社会学部の青木貞茂教授ゼミの学生らが「TOHOKU LOVE 2019 GAKUSEI MOVIE CONTEST」(主催:東北電力株式会社)のPRムービー部門に応募。グランプリをはじめ、3作品が受賞しました。



【受賞作品】
 グランプリ「それでもやっぱり東北が好き」
 (代表者:社会学科3年 村田輝らら)
 最終選考入賞「この優しさ、東北産」
 (代表者:メディア社会学科3年 大川悠里)
 佳作「僕の仲間は東北っ子」
 (代表者:社会学科3年 伊澤 舞)

※学年は受賞当時

スキー部、女子GSなどアルペンスキー競技で好成績

今シーズン、スキー部は好成績を連発しています。2月24日(月)に開催された「秩父宮杯・秩父宮妃杯第93回全日本学生スキー選手権大会」で、女子GS(大回転)に出場した齋藤実祐選手(社会学部3年)が悪天候の中2位を奪取。2月3日(月)～7日(金)に開催された「第35回全日本学生アルペンチャンピオン大会(技術系)」では、女子GS第1戦で越後英美華選手(現代福祉学部2年)、同第2戦で齋藤選手が優勝を飾りました。齋藤選手は2月11日(火)、12日(水)に開催した「第35回全日本学生アルペンチャンピオン大会(アルペン競技スピード系)」の女子SG(スーパー大回転)部門でも3位に輝いています。



齋藤実祐選手(写真提供:スポーツ法政新聞会)

※学年は受賞当時

令和元年度「公認会計士試験合格者交流会」「公認会計士試験合格祝賀会」を開催

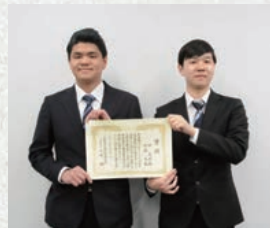
1月25日(土)、ボアソナード・タワーにて高度会計人育成センター主催による「公認会計士試験合格者交流会」、公認会計士法友会主催による「公認会計士試験合格祝賀会」を、それぞれ開催しました。



今年度の公認会計士試験では、学部と大学院合わせて本学からは34人が合格。うち16人は在学中であり、また、20人は高度会計人育成センターが主催する会計専門職講座の出身でした。両会には多くの関係者が駆け付け、「公認会計士試験合格祝賀会」に出席した田中総長からは「日々新たな気持ちで、新しい社会のことを学びながら、いい仕事をしていただきたいし、いい社会を作っていただきたいと思います」と祝辞が寄せられた他、合格者へのお祝いと激励の言葉が送られました。

経営学部洞口ゼミの学生が「第33回2019年度中小企業懸賞論文」金融部門にて準賞を受賞

経営学部の洞口治夫教授ゼミに在籍する林直樹さんと安藤天さんが、一般財団法人商工総合研究所が主催する「第33回2019年度中小企業懸賞論文」の金融部門にて準賞に輝きました。中小企業懸賞論文では、学生から実務家まで幅広い層から論文を公募。「事業性評価融資による中小企業金融の新たな展開」「金融機関によるスタートアップ企業支援」をテーマとした金融部門には、22編の応募がありました。



新型コロナウイルス感染症に関する本学の対応について

新型コロナウイルス感染症の拡大に関連し、本学では2月19日に危機対策本部を設置。大学ウェブサイトにおいて、大学行事の実施や変更を含めた大学としての方針、対応をお知らせするとともに、注意喚起を行っています。状況は日々変化していますので、学生、生徒、教職員の皆さんは、定期的に本学ウェブサイトを閲覧して、最新の情報を確認してください。また、学年暦や各学部、研究科における新年度日程については、当初の予定から変更が生じていますので、各学部、研究科のホームページもしくはWEB掲示板も併せて確認してください。万が一、感染が確認された方(疑いも含む)、出入国に際して自宅待機を命じられた方は、直ちに学部、研究科など、所属組織の窓口にお知らせください。

法政大学ウェブサイト



新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐための政府からの緊急事態宣言発令(4月7日付)に伴い、広報誌「HOSEI」の5月号、6・7月号を休刊とさせていただきます。次回発行は8・9月号(2020年夏頃発行)を予定しております。

※年間有料購読者の方は、休刊分の代替措置として、契約期間終了後の2月号を無料でご提供させていただきます。



情報科学研究科、理工学研究科の学生が続々と受賞

本学大学院に属する情報科学研究科および理工学研究科の学生が、参加した国際シンポジウムなどで功績が認められ、下記の賞を受賞しました。

小室光広さん(情報科学研究科 修士2年)

人工生命や知的計算などの人工知能に関する国際シンポジウム「25th International Symposium on Artificial Life and Robotics, AROB 25th 2020」にて「Young Author Award」を受賞

山本真依さん(理工学研究科電気電子工学専攻 修士1年)

「第20回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会(SI2019)」にて「優秀講演賞」を受賞

高木美甫さん(理工学研究科機械工学専攻 修士2年)

「日本材料科学会第26回材料科学若手研究者討論会」にて「プレゼンテーション賞」を受賞

※学年は受賞当時

第42回(2019年度)法政大学懸賞論文授賞式を開催

2月27日(木)、市ヶ谷キャンパスのボアソナード・タワーにおいて、第42回(2019年度)法政大学懸賞論文の授賞式を開催しました。今年度は97編の応募があり、優秀賞2編、入選11編、佳作39編が選ばれました。



授賞式には執筆者の他、共同作成者、ゼミの指導教授、ご家族など多くの関係者が出席。冒頭で本学副学長の廣瀬克哉教授からの祝福メッセージに続き、各受賞者に賞状が授与されました。受賞者を代表したスピーチでは、優秀賞に輝いた川瀬夏来さん(経営学部)と須澤歩美さん(現代福祉学部)が、論文を執筆した際の思いや今後の展望、ゼミの担当教員への感謝を語りました。

環境センターの取り組みが「第13回新宿エコワン・グランプリグループ部門優秀賞」を受賞

本学環境センターを中心に取り組みを進めている「法政大学屋上緑化維持管理プロジェクト」は、2020年3月に新宿区、千代田区にまたがる「外濠」における人間や生物にとっても居心地のいい「法政大学で最愛の庭園」を目指した取り組みとして、「第13回新宿エコワン・グランプリ グループ部門 優秀賞」を受賞しました。



同プロジェクトは、都心における生物多様性の保全の取り組みとして、市ヶ谷キャンパスボアソナード・タワー4階「グリーンテラス」に遊びにくる蝶、昆虫、鳥などの「自然観察」や「気候変動の適応策」としての緑化を踏まえた「持続可能な地球社会の構築」に貢献できる人材育成を視野にいたれたプロジェクトに発展させる予定です。

国の高等教育の修学支援新制度の申請について

2020年4月から、授業料・入学金減免と給付型奨学金を受けられる修学支援新制度が始まります。2019年度および2020年度第1回目(4月21日まで)の申請ができなかった学部生は、下記の日程で申請ができます。

2回目:5月11日(月)・12日(火)(1回目に申請できなかった方)

※2020年4月にさかのぼっての制度適用は、今回の申し込みのみですご注意ください。また、状況により日程などが変更になる可能性もありますので、本学ウェブサイトを随時ご確認ください。

詳細は各キャンパスの奨学金担当窓口で配付している申請書類を早めにご確認ください。制度の概要は本学ウェブサイトでも確認できます。

【お問い合わせ先】

(市ヶ谷)学生センター-厚生課	03-3264-9486
(多摩)学生センター-多摩学生生活課	042-783-2151
(小金井)学生センター-小金井学生生活課	042-387-6011

2020年度の学年暦を公開

2020年度の授業期間、試験期間、休業期間、祝日の授業実施予定、入学式、学位授与式の日程をまとめた学年暦を本学ウェブサイトにて公開しています。新型コロナウイルス感染症の影響により、今後学年暦が変更になる可能性も考えられますので、随時ご確認ください。

多摩キャンパス路線バス割定期券・回数券の販売

多摩キャンパス鉄道最寄り駅とキャンパス間の路線バス定期券・回数券は、大学が運賃補助を行っています。通常のバス料金価格よりも割安な本学学生専用定期券と回数券を、多摩キャンパス内の法政大学生活協同組合店舗(総合棟地下1階生協タマエもん)で販売しています。ぜひご利用ください。

2020年度の事業計画書、予算書を公開

2020年度の事業計画書、予算書を本学ウェブサイトにて公開しています。

本学専任教職員の最近の著書、編纂書、訳書をご紹介します。

BOOKS



スクールソーシャルワーカーの実践から いじめ・虐待・貧困から 子どもたちを守るための Q&A100

いじめ、不登校、虐待、貧困、孤立など、さまざまな困難に直面し、悩み、苦しみ、耐えている子どもたち。どのように支援をすればよいのか、どうすれば困難を予防できるのか。子どもたちの悩みに向き合い、専門的支援を担うスクールソーシャルワーカーが、実践を通じて導き出した問題解決へのヒントをQ&A形式で分かりやすく解説。

岩田美香 他1名 編著

現代福祉学部福祉コミュニティ学科 教授

出版社：生活書院

発行：2019年7月



中国経済の制度分析 契約理論・ゲーム理論アプローチ

中国は西欧諸国や日本とは根本的に異なる経済体制を前提としながら、前代未聞のスピードで経済発展を遂げた。それを支えた制度的な要因は何か。本書は、中国経済の制度分析（重要トピック：中央地方関係、所有制改革、貿易vs直接投資、産業組織）について、「契約理論・ゲーム理論アプローチ」で一貫して体系的に論じている。

鈴木豊 著

経済学部現代ビジネス学科 教授

出版社：日本評論社

発行：2020年1月



組織・人間・技術のマネジメント セキュリティの心理学

「セキュリティの心理学」は、情報システムのセキュリティについて人間の心理的な側面から考察し、セキュリティを総合的に確保することを目的とした学問分野である。本書では、セキュリティに関する心理学の重要性を訴えるとともに、情報システムの管理者と不正行為者の心理・行動を考慮した上でセキュリティ確保のための課題と技術を調査・検討している。

越智啓太 他3名 著
文学部心理学科 教授

出版社：海文堂出版

発行：2019年11月



クリーピーラブズ

犯罪心理学者・高倉孝一が「高倉犯罪相談所」を開設した。気に入った事件しか引き受けないというが、高倉好みの気味の悪い「事件」が持ち込まれてくる。企業重役の不貞行為、小劇団内の監禁事件、女子中学生拉致事件など、ゆがんだ愛にまつわる奇妙な事件の数々に、探偵・高倉孝一と助手の夏目鈴が挑む。好評「クリーピー」シリーズの文庫オリジナル短編6編を収録。

前川裕 著

国際文化学部国際文化学科 教授

出版社：光文社

発行：2020年2月

※日外アソシエーツ 図書内容情報bookplusを参照

法政大学生協同組合書籍部より

<市ヶ谷キャンパス>

新生活応援書籍も品ぞろえしています

ご入学、ご進学おめでとうございます。生協の購買書籍部では、新学期を迎えたこの時期は、教科書や参考書だけでなく新生活のスタートを応援する「春恒例の書籍フェア」を実施しています。

先輩たちに読み継がれてきた、大学生活に役立つロングセラーや、慌ただしく忙しい新学期に「肩の力を抜いてほどほどに頑張ろう!」と思っただけの書籍を取りそろえています。「思考の整理学」(外山滋比古著、筑摩書房)や「情報生産者になる」(上野千鶴子著、筑摩書房)などは、学生だけでなく、ご家族の皆さまも一度は読んでみることをお勧めします。

(市ヶ谷購買書籍部)



HOSEI 4月号

令和2年4月20日発行
第47巻第3号(通巻716号)

発行 法政大学 総長室 広報課
〒102-8160
東京都千代田区富士見2-17-1
TEL.03-3264-9240

協力 法政大学後援会

企画・制作協力 (株)日経BPコンサルティング

印刷所 図書印刷株



■ Award

2019年度

自由を生き抜く実践知大賞 1

2019年度「自由を生き抜く実践知大賞」には大学憲章を体現するような実践の取り組みとして18件がノミネート。厳正な審査にて、大賞と大学憲章に連なる本学の理念などのキーワードを冠した4賞の計5賞が選ばれました。ここでは、それぞれの受賞の取り組みを順に紹介します。

自由という広場賞

「ガラス箱オフィスアワーセンター(GBC)」 (実践主体:情報科学部)



ノミネート理由・活動概要

情報科学部では、「授業や勉強方法、簡単な学生生活上の悩みを気軽に相談できる場」を学生に提供すべく、2009年度にガラス箱オフィスアワーセンター(GBC)を開設、現在まで継続しています。

GBCは、学生アシスタント(SAと呼ばれる学部生、TAと呼ばれる大学院生)、教員、相談員(臨床心理士の資格を持つカウンセラー)の三者が一体となって運営しています。

主な活動は学生の学習サポートですが、他にも、学生アシスタントの発案でさまざまな企画を行っています。例えば、英語力の向上を図るために学部独自で取り組んでいる「イングリッシュコーナー」、科目別の質問者数を分析した結果などを基に選出した特定科目の「対策講座」や「プログラミング講習会」、学生と教員の距離を縮めるための「GBC懇親会」などがあります。

2018年度には延べ2194人が、GBCに来室しました。その中で1、2年生の来室者が全体の7割強を占めていることから、GBCの活動が低学年の学生生活サポートに役買っていることがうかがえます。

総長からの選定理由コメント

GBCの取り組みは、教員の義務と化しているオフィスアワーを、学生同士の対話の場にする事で、教員もまた楽しく開放的に指導する場所を作りました。

すでに長く使われており、活動には学生のアイデアが活きています。自由な空間で「対話」を推進する場を創造し続けていることを顕彰したいと思います。

受賞者からの感想

情報科学部は専門的な科目が多く、授業についていけなかったり、課題に行き詰まったりすることが多々あります。GBCでは、同じ苦勞を経験した先輩方や、普段はアポイントを取らないと会えない先生方に、気軽に相談できます。

利用者と同じ立場の私たち学生アシスタントが、自由な発想で試行錯誤しながら作り上げてきたGBCは、今や情報科学部になくてはならない存在になっていると確信しています。

(GBCスタッフ一同)

2019年度「自由を生き抜く実践知大賞」を開催して

法政大学総長 田中 優子

2019年度もたくさんのノミネートから各賞を選ぶのに大変迷いました。一つひとつの取り組みを皆さん熱心に実践していることが伝わってきました。皆さんがご自身の口で話してくださる活動の日々こそがまさに実践知だと思います。単に言葉として学んでいるということではなく、日々実践しながら新しい知を獲得し、次の経験につながる活動をされています。

今回選定の基準としたテーマは、「価値観を変える実践知」です。たとえば、大賞の「植物医学センター」は、増収増産、グローバル企業による支配などに向かう食糧や植物の世界の中で、植物の側に立って生命を尊重する研究を積み重ねています。これは動植物への価値観を変えるものであり、実践知は価値観を変えることができるのだということ、みなさんの実践の中でいきいきと感じることができました。



「自由を生き抜く実践知大賞」の各賞の詳細や表彰式の動画は、HOSEI PHRONESIS(<http://phronesis.hosei.ac.jp/>)をご覧ください。



快適・安心・便利なキャンパスへ



グローバル化への対応、社会との交流、
生涯教育の推進をコンセプトとする
「開かれた法政21」のために法政大学と共に
(株)エイチ・ユーは新たな知的資源を
有効活用して様々なニーズにお応えします。
法政大学の教育と研究をサポート発展させるために
設立された会社です。

大学の知的財産（教育・研究・施設・人材）を
活用し、新たな事業展開を図ります。
学生のニーズの把握につとめ
各種サービスを行います。
幅広い事業活動を通じて
大学施設がある地域へのサービスを行います。
事業活動の中で得られた利潤を
法政大学に還元していきます。



※株式会社エイチ・ユーは法政大学の子会社です